筑北小学校だより

令和５年２月３日

No.10

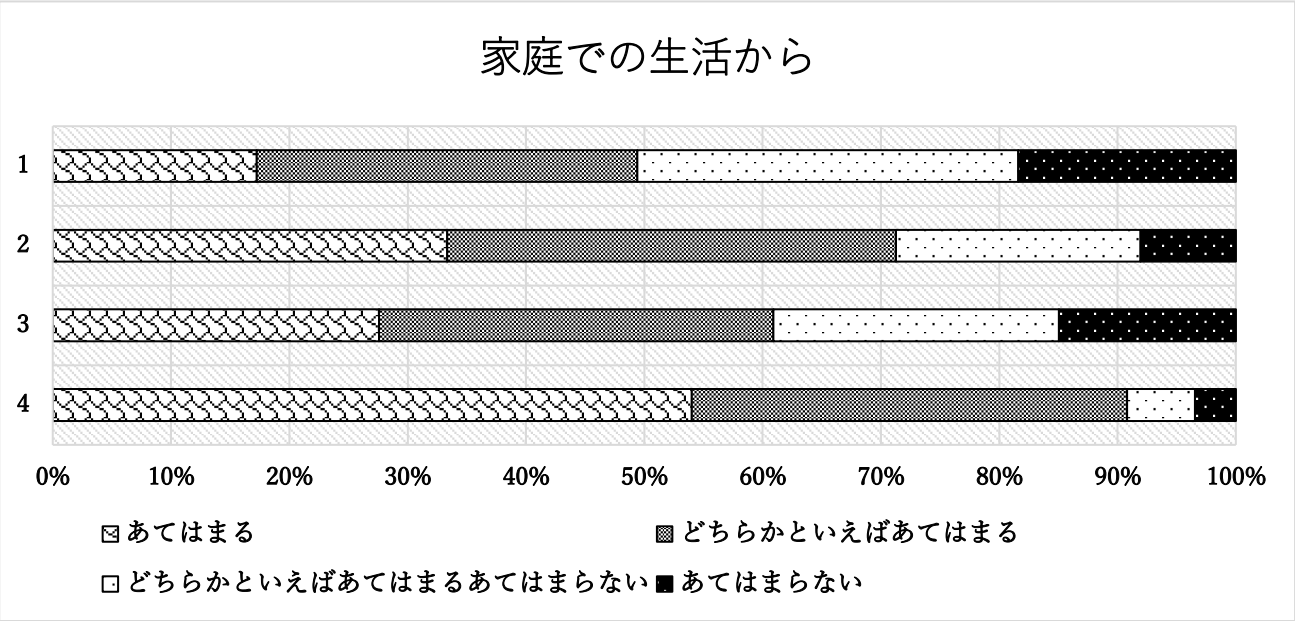
学校評価アンケートの結果から（ご協力ありがとうございました）

　このアンケートは、学校運営、子どもたち一人ひとりへの支援・指導、授業改善に生かしていくために行いました。結果がまとまりましたのでお知らせします。

【回収率】
　児童数で回答いただきました。全校に１３８枚配布し、学校へ９０枚提出していただきました。６５％の回収率です。（昨年度は67％）今後は、保護者の皆様からのさらなる回収率向上のために、工夫を重ねてまいりたいと思います。

はじめに、「家庭での生活から」の結果について

1	お子さんは、家庭で、よく本を読んでいる。
2	お子さんは、家庭で、親が言わなくても自分から進んで勉強をしている。
3	お子さんは、家庭で、自分の将来や進路についての話をする。
4	お子さんは、家庭で、学校での出来事や友だちのことについて話をする。

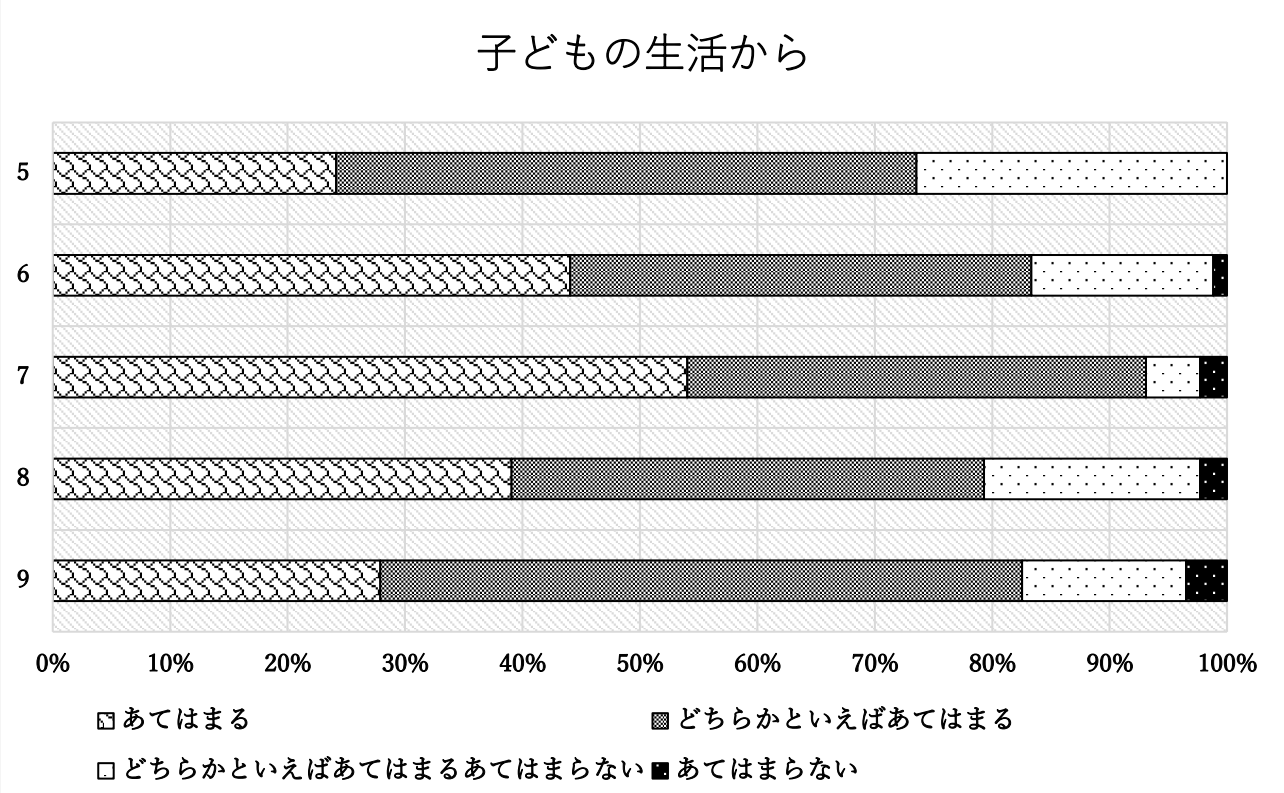


「家庭での生活から」の結果から。質問１の「家庭で、よく本を読んでいる。」について、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」の肯定的な回答を合わせると 49%になります。デジタル化が進み、読書離れが心配されます。読書量が多い子どもほど、学力が高いという相関関係が出ています。学校では朝の活動で読書をおこなったり、読書旬間を設定して、おすすめの本の紹介や外部講師を招いてのお話の会を進めて、子どもたちを本の世界へ誘ったりしています。また、毎月おはなしボランティアの方による読み聞かせ継続していきます。

また「学校での出来事や友だちのことについて話をする。」については91%。児童アンケート「家庭では考えや思いを聞いてもらっていますか」については80%となっています。この結果から家庭で親子の会話が十分であることがうかがえます。高学年になると学校のことを話さない子が増える傾向にありますが、学校の出来事を話題に、今後とも会話をしていただきたいです。コミュニケーションが取れていると、子どもの悩みに気づき、早めの対応が可能になります。

「子どもの生活から」の結果について

5	お子さんは、場に応じてきちんと挨拶ができる。
6	お子さんは、地域の行事に参加している。
7	お子さんは、友だちとなかよく学校生活を送っている。
8	お子さんは、学校に行くことを楽しみにしている。
9	お子さんは、授業がわかりやすいと感じている。

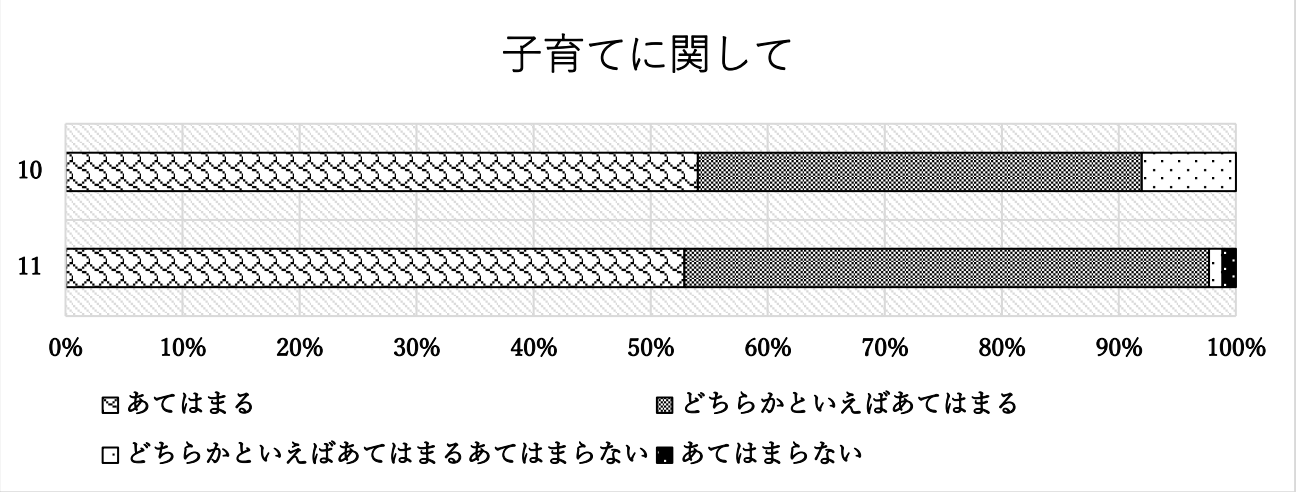


「子どもの生活から」の結果から。「場に応じてきちんと挨拶ができる。」については73%。同じく児童アンケートでは、「友だちに対してのあいさつ」については76%、「地域の方に対してのあいさつ」については64%でした。あいさつについては、教職員で力を入れて指導しているところですが、目標の8割に届かず残念でした。特に地域の方とは、いろいろな場面でお世話になっているので、子どもたちから積極的にあいさつできるよう、今後も指導支援していきます。

また「友だちとなかよく学校生活を送っている。」については93%。同じく児童アンケートでは、同様な質問に対して93%でした。子どもたちは学校での生活時間が長く、その中心は授業になります。学校では授業の公開、村の巡回子ども相談や訪問支援を活用した「よさ」の共有と授業改善に日々取り組んでおります。授業の中で、子どもたちが「できた、わかった」という満足感が得られ、次の学びの意欲につながれば、毎日、元気に登校できるのではないかと考えています。

「子育てに関して」の結果について

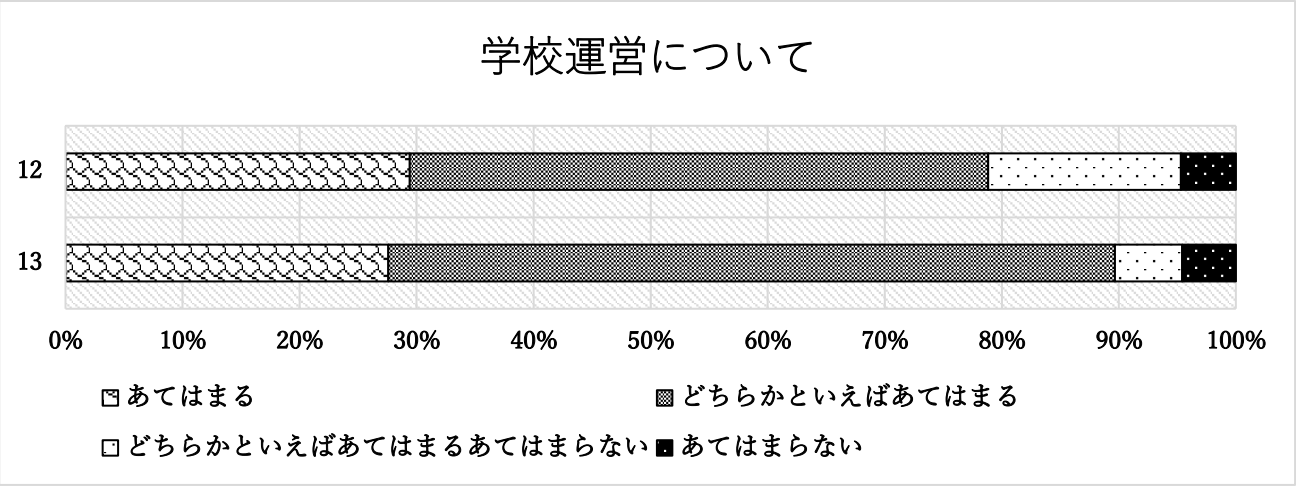
10	家庭では、お子さんのよいところを褒めるなどして、自信を持たせるようにしている。
11	学校や学級の教育活動に関する情報提供（おたより等）は、役に立っている。



「子育てに関して」の結果から。「お子さんのよいところを褒めるなどして、自信を持たせるようにしている。」については92%。児童アンケートでは、「先生は、あなたのよいところを褒めてくれると思いますか」について85%でした。お子さんの良さを認め、励ますように接していただくことが大切だと考えています。家庭の中で、「〇〇してくれてうれしいよ」「あなたがいてくれてよかった」等の言葉がけを繰り返すことで自己肯定感が高まっていきます。お手伝いなど家族としての役割を与え、できたときには大いに褒めてあげてほしいと思います。教育活動に関する情報提供については、ほぼ全員の皆さんから肯定的回答をいただきました。今後とも、正確で温かいおたよりの作成に努力します。なお、学校だよりや通知分についてはホームページにも掲載しております。

さいごに、「学校運営について」の結果について

１２	学校は、お子さんの教育について、学校の先生に相談したり、要望を伝えたりしやすい。
１３	学校は、全体として期待に応えてくれている。



「学校運営について」の結果から。「学校の先生に相談したり、要望を伝えたりしやすい。」については78%。「期待に応えてくれている。」については90%でした。

学校が子どもたちや保護者の皆さんにとって、安心安全で信頼される存在であるために努力し、今後もよりよい学校を目指して取り組んでまいります。ぜひ、遠慮せずに学級担任や相談窓口にご相談ください。

自由記述欄では、職員の指導姿勢に関わって「相談しやすい関係性、クラスの雰囲気を作ってくださり感謝です。」「クラス経営もすばらしく、子どもが伸び伸び過ごし、成長しているのが伝わってきます。」など、温かいお言葉をたくさんいただきました。

その一方で「まず授業のスタートで今日の授業の流れを子どもたちに伝えてから始めてほしい。仲間と話し合っていい授業なのか、じっと座って先生の話を聞く授業なのか伝えてほしい。」「先生の言っている事が理解しにくい教科がある。」などのご意見もいただきました。児童への指導や声のかけ方、また授業改善や内容について今後も職員会議や学年会で確認していきます。

また、人権教育の課題として「発達障害について理解を深めてほしいです。(通常学級でも支援できるように)子どものやる気を引き出してほしい。楽しめる(先生方も)仕掛けをたくさん考えてほしいです。笑顔が多い(子どもも先生方も)学校にしてほしいです。」「自信をつけさせて乗り切る力をつけさせるように学校とも連携して現状を乗り切りたいと思う。上級生は下級生のモデル(いい事も悪いことも)であると思う。」というご意見をいただきました。人権教育は、本校がさらに力を入れて取り組むべき課題のひとつとして考えております。次年度の教育計画にも位置づけるとともに、村教育委員会や小中合同学校運営委員会や社会福祉協議会と連携して、全校児童一人ひとりが、学校教育目標の「つながる」だれとでも仲良く対話する児童を目指し、相手を思いやる気持ちを育てるように」しっかり取り組んでいきます。

保護者アンケートについては、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」との肯定的な回答を多くいただきました。本校の取組にご理解とご協力をいただいていることに深く感謝いたします。しかし、数値だけにとらわれることなく、良い実践は今後も継続し、改善が必要なものについては、しっかり取り組んでまいります。また、アンケートでは温かな意見をたくさんいただきありがとうございました。中には厳しい意見もありましたが、それらは筑北小学校をよりよい学校にするための建設的な意見であるととらえ、今後の指導や学校体制づくりに生かしていきたいと思います。特に、学級を基盤とした集団づくりを引き続き大切にしていくことや、より多くの児童にとってわかりやすい授業になるように今後も力を入れていきたいと考えております。

アンケートでは、体罰についても聞き、体罰は認められませんでした。(保護者・児童・教職員とも)学校では、「体罰は決して指導ではないこと」を繰り返し研修しています。職員相互においても、体罰はゆるされることではないと自覚して指導しております。また、言葉による指導についても研修をつんでいるところです。子どもの言葉や様子から心配なこと等ありましたら、遠慮なく学級担任まで相談ください。保健室や校長室も相談窓口として常時空けてありますので、ご利用ください。

最後に、これからも学校教育目標である「ふるさと筑北村を愛し つづける子 つながる子 じしんをもって輝く子」を目指して、楽しく充実した学校生活を子どもたちが送れるよう、保護者の皆様と協力して取り組んでいきたいと考えております。今後も変わらぬご支援ご協力をよろしくお願いいたします。